

議事抄録

件名	加賀市定住促進協議会 第2回 加賀市版「生涯活躍のまち」検討部会
日時	平成28年11月8日(火) 14:30~16:30
会場	加賀市山中温泉支所3階会議室 (旧山中温泉医療センター跡地視察)
出席者	(委員) 松下座長、原委員、馬場先委員、宇野委員、三本松委員、野澤委員、 藏田オブザーバー (事務局) 河合副市長、代工市民生活部長、高川健康福祉部長、宮地理事、荒 谷山中支所長、北七長寿課長、新家振興課長、山下地域包括支援セ ンター所長、大田地域医療推進室長、山村人口減少対策室長、一般 社団法人生涯活躍のまち推進協議会 堀田氏
資料	○ 第2回加賀市版「生涯活躍のまち」検討部会 次第 ○ 加賀市版「生涯活躍のまち」検討部会委員名簿 ○ 第2回加賀市版「生涯活躍のまち」検討部会座席表 ○ 資料1 人口現状分析(各種抜粋資料) ○ 資料2 加賀市版「生涯活躍のまち」構想骨子(案) 加賀市版「生涯活躍のまち」基本計画骨子(案) ○ 参考資料 加賀市への移住ガイドブック 『加賀でかがやく』
会議内容	
座長挨拶	<ul style="list-style-type: none"> ● 今回からいよいよ構想の内容の提案に対する意見となる。皆様よろしくをお願いします。 ● 議事に入る前に、前回第1回検討委員会に置いて、宇野委員から質問のありました加賀市の人口動態に関する推移について事務局から説明をお願いします。
前回検討部 会質問への 回答 (山村室長)	<ul style="list-style-type: none"> ● 関連計画等から抜粋した資料を説明します。 ● 「加賀市人口ビジョンから抜粋した加賀市の人口の現状分析」 「人口ビジョンの加賀市の独自推計の結果をグラフで示したも の(男女別、年齢別の人口推移)(加賀市の人口増減の推移。平成 32年から平成72年までの数値)」「高齢者お達者プラン、加賀市 高齢者福祉計画、加賀市介護保険計画から抜粋した資料(平成32 年、37年の数値。推計方法が人口ビジョンの推計とは違うため 数値が異なるが、高齢者数、高齢者率の推移について示すもの)」 ● 年齢3区分別の人口の推移としては、加賀市の人口は1985年を

	<p>ピークに減少の一途をたどっている。老年人口が増え続けているのに対し、年少人口は 1985 年から、生産年齢人口は 1995 年から減少に転じている。1995 年から老年人口が年少人口を上回り、2040 年に向けて生産年齢人口と老年人口の差が急速に縮まると見込む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 2025 年以降は老年人口も減少に転じ、3 区分すべてで人口の減少が進むと推計。 ● 国のほうでは、第 1 段階として若年層の人口が減少するとともに老年層の人口が増加する、第 2 段階として若年人口が減少するとともに老年人口が維持・微減をする、第 3 段階として若年人口が減少するとともに老年人口も減少するという風に定義している。 ● この定義に基づくと、加賀市の人口減少の段階は第 2 段階に入り始めたところと認識。 ● 1985 年をピークに人口の減少が始まっているが、国については 2008 年から、石川県については 2005 年から人口の減少が始まっている。そのタイムラグについては 20 年程度ある。 ● 加賀市の老年人口については 2025 年がピークとなるのに対し、国と石川県は 2040 年にピークを迎えると推計されており、15 年ほどのタイムラグがある。 ● およそ 15 年から 20 年、加賀市の人口減少は国や県より早く事象が発生していると分析している。
<p>質疑</p>	<p>(松下座長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ご意見やご質問はありますか。 <p>(特になし)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● では、議事の進行を務めさせていただきます。次第 3 の議事について、(1) と、(2) につきましては、別の項目となっておりますが、一括して説明していただいた方が分かりやすいと考えられますので、事務局の方からは、(1) 「生涯活躍のまち」構想(市全体)の骨子案」と(2) 「生涯活躍のまち」基本計画(旧山中温泉医療センター跡地)の骨子案」について、一括して説明をお願いします。
<p>加賀市版「生涯活躍のまち」構想骨子説明</p>	<p>資料 2 P2 【「生涯活躍のまち」のイメージと構成要素】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 前回の検討部会で説明した「生涯活躍のまち」の説明の要約版。 ● 生涯活躍のまちは、高齢者移住政策ではあるが、そのための取り組みとしては地域づくり事業である。

(堀田氏)

- 多様な住人が主体となって地域社会を作っていく、住民の活躍の場を作っていく、ケアが必要となった時でも安心して暮らしていけるまちづくり。それを支える重要な要素として、多世代の方々がつながりながら暮らしていくということが挙げられる。

資料 2 P3【新しい人の流れを呼び込むための取組みと「生涯活躍のまち」との関係】

- 加賀市版「生涯活躍のまち」と加賀市の移住定住政策とのかかわりを示したもの。
- 加賀市がすでに取り組んでいるものや、これから取り組んでいく移住定住促進政策(ローカルベンチャー、若者等就労支援事業等)と連携するような形で、新たに外から来られる方はもちろん、すでにそこで暮らす人も住みやすい、そうすることで外から来た人も暮らしやすいそんな地域づくりを目指すもの。

資料 2 P4【各取組みと「生涯活躍のまち」の連携、展開】

- それぞれの移住促進の事業と「生涯活躍のまち」における地域づくりは地域の強みを生かした地域づくりを進めるという点で、リンクする。
- もともと住まわれている方も、新たに来る方も、住民の手で、それぞれが特色ある地域づくりに取り組んでいく。
- そのひとつのモデル拠点として、旧山中温泉医療センター跡地が挙げられており、こちらを拠点とした基本計画づくりを進めていく。

資料 2 P5【加賀市版「生涯活躍のまち」の構成要素】

- 「生涯活躍のまち」にあったらよいと思うものを文章で説明したもの。
- いろんな方に居住してもらうための住まいの要素、住民の方に就労や社会参画といった様々な機会をつくる活躍の要素、見守り・ケアの要素、多世代がつながり合うという要素が挙げられる。

資料 2 P6【加賀市版「生涯活躍のまち」の事業主体(運営推進法人)】

- 加賀市版「生涯活躍のまち」の運営については、運営推進法人(運営主体)を設定することが想定される。

資料 2 P7【加賀市版「生涯活躍のまち」事業主体に期待される役割】

- 運営推進法人の担い手としては、医療法人、社会福祉法人、大学法人、特定非営利活動法人、まちづくり会社など、様々な法人が

例示されており、とくに指定されていない。

- 運営推進法人に期待される機能としては、事業計画の策定、関係事業者との連携、コミュニティづくり(地域交流拠点・仕組みの整備)、これらを継続的に運営していくことができる安定的な収益の確保が求められ、構想段階からこうしたことを意識した構想づくりを進めることが必要。
- これまで加賀市で取り組んできた、または、これから取り組む様々な移住定住促進事業と連携すること、地域の良さを活かしながら従来から暮らしている地域の方にとっても暮らしやすいまちづくりであることが、加賀市版「生涯活躍のまち」の特徴となる。

資料 2 P8【旧山中温泉医療センター跡地の利活用について(案)】

- 本日視察した旧山中温泉医療センター跡地活用の方向性として、「H27年度 第2回山中温泉地域協議会拡大会議」において示された資料。
- 地域の課題として、高い高齢化率や独居率、旧山中温泉医療センターが診療所へと機能を縮小したことによる周辺住民の健康、福祉に係る不安が挙げられている。
- それら課題を踏まえ、既にある診療所や温泉を活かしながら、高齢者住宅や多世代交流の場づくりを進めることが活用案として示されている。

資料 2 P9【旧山中温泉医療センター跡地イメージ図】

- 拠点候補地である旧山中温泉医療センター跡地に既にある、診療所、温泉、サービス付き高齢者住宅、北陸大学セミナーハウス、障がい者福祉サービスといった施設や機能を活かしながら、加賀市版「生涯活躍のまち」に必要な機能を加えていくことを考えていきたい。
- 地域の人々が活躍するような仕掛け、つながり合っていくような仕掛けをどのように作っていくのが大切。
- 近接する小中学校や体育館、周辺住宅等との連携も重要。
- 構想としては、跡地に大きな施設を作るのではなく、様々な機能を持った小規模な施設やサービスをエリア内に設置していくことをイメージしている。

資料 2 P10【「生涯活躍のまち」に望まれる機能(住まい)】

- 多世代の人に暮らしてほしいということで、移住事業等で移り住んできた若者向けのシェアハウス、アクティブシニア向けの住

	<p>宅、子育て世代向けの住宅分譲といった形を検討していきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 関わり合いができる仕掛けとして、シェアハウスに地域開放スペースを組み込んだり、高齢者住宅に地域向けの店舗を併設したりと、何かしら地域と関わり合う仕掛けを組み込むことが理想。 <p>資料2 P11【「生涯活躍のまち」に望まれる機能(活躍)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ローカルベンチャーや若者等就労支援事業等と連携した、地域での起業、就業の機会作りが期待される。 ● まちづくりに組み込まれるサービス機能に合わせて、住人にワークシェアやボランティアの機会を提供し、住人が町に貢献しているとう実感を持てるような取り組みも検討したい。例えば、住民が共同で運営する農園や売店の設置など。 ● 大学も含め、様々な機関と連携した生涯学習やアクティビティの場づくりを進めることも考えたい。 <p>資料2 P12【「生涯活躍のまち」に望まれる機能(ケア)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 既にある診療所の機能を残しつつ、市で進める地域包括ケアの仕組みと連携することを計画していく。 ● 人と人が関わる機会を増やして、住民同士が見守り合う機能を強化していく。 <p>資料2 P13【「生涯活躍のまち」に望まれる機能(多世代交流)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 地域の様々なひとをつなぐ拠点施設の設置が重要となる。 ● 周辺の住民も含め、多様な世代の地域の人が自ら足を運んでくれるような場所を作る。例えば、カフェやすでにある温泉を活用した健康増進のサービス提供など。 <p>資料2 P14以降</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 前回検討部会でも示した、まち・ひと・しごと創生本部が紹介している「生涯活躍のまち」づくりの参考事例の資料。大学連携、空き家活用、住民主体など様々な例がある。 ● P26以降については、同じく創生本部が紹介している、地域活動等と健康寿命の関係を示した各種データ。
<p>質疑</p>	<p>(原委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 大雑把なイメージはついたが、具体的な部分のビジョンが分かりにくい。もう少し具体的に絞っていくと良いのではないか。 <p>(馬場先委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● この全体構想(骨子)ならびに旧山中温泉医療センター跡地活用素案(骨子)に加えるものを考えたり、もう少しこうしたらよいのではないかということコメントしたりすることで、この構想を

ブラッシュアップさせていくことがこの会の目的ということで
良いか。

(山村室長)

- そういう形で進めたいと考えている。

(馬場先委員)

- ここで検討する構想とは、旧山中温泉医療センター跡地のものなのか、加賀市全体のものなのか、どちらか。

(山村室長)

- 構想については加賀市全体として考えていく。そのひとつのモデル地域として旧山中温泉医療センター跡地を拠点としたものを検討し、これを基本計画としたいと考えている。

(馬場先委員)

- 資料2のP.4に大きな構想が出ているが、加賀市として、人口減少を「どのくらいの人たちを移住を推進させたいと考えているのか。」あるいは、「就労の場をどのくらい作ろうとしているのか。」「そのなかでの山中の役割は」と具体的に考えていく必要があるのではないか。そうした中で、総合計画は今検討している最中であるため具体案はまだ決まっていないと思うが、どのくらいの力の入れようなのかというのを確認しておきたい。このエリアの中で何人分くらいの雇用を確保したいのか。結果論でも良いが。それが見えたほうがイメージしやすい。

(堀田氏)

- ローカルベンチャー、若者就労支援は、これから加賀市で組みまれていくことになるが、その就労の場は、拠点の中に限らず、周辺も含めた様々な場所で検討されていくことになる。
- 事例のあるところでは、資料2のP23～P25について、こちらは既に実績のあるところで創生本部が参考にした事例(P16～P22の例は現在計画中・準備中のもの)。
- この中で、例えばシェア金沢はイメージとしては旧山中医療センター跡地のようなエリアに様々な機能を取り入れた事例。この事例でかなりの雇用がある。
- ゆいま～るは、サービス付き高齢者住宅を核に運営されている事例だが、こちらで(外部委託も含め)約10人の雇用。
- シェア金沢もゆいま～るも、職員だけでなく、そこに住む方々のワークシェアも取り入れられている。
- これらは運営推進法人にあたる組織が、それぞれ、福祉事業やサ

ービス付き高齢者住宅事業を運営しながら進めている事例。

- このように、運営推進法人は何らかの経営土台をつくるため、そこに必ず雇用は発生する。
- 旧山中温泉医療センター跡地の場合は、周辺人口規模がそれほど大きくないため、これら事例よりは小規模になると思われるが、それなりの就労機会が創出されると期待できる。

(馬場先委員)

- 人が人を呼ぶということがあるため、少しでも雇用の機会を増やしていくことは必要なことだと思う。

(藏田オブザーバー)

- ローカルベンチャースクールに関わっていることもあり、それも含めて質問を。
- ローカルベンチャーでは、今年から 3~4 年かけて毎年十数人規模で、都市部から加賀市にチャンスを求めてくる若手起業人を誘致していくもの。
- 若者等就労支援のほうは、様々な課題を抱えているような若者に活躍の場を提供するということで、起業人をターゲットとするローカルベンチャーと色分けされている。
- これらを山中地域でどのくらいの人数を配分していくのかということについては、市として全体の構想を見ながら検討していくことが重要だと考えている。
- 官民連携のお手伝いをしている観点から、資料 P6 について質問したい。
- この部会では基本計画、事業計画を検討するとして、示されたコンセプトに足りないものがないのかというところをしっかりと議論すると考えている。
- 「生涯活躍のまち」の要素として示されたコンセプトを見たときには、かなり盛り込まれており必要なものを充分満たしていると思われるが、示された構想を事業としてどう運営していくのかという視点が、持続性や波及効果を考えたときには重要だと考える。
- もし、加賀市として既に運営形態の想定があるようなら、それを打ち出したうえで計画を検討するのが良いのではないかと。

(山村室長)

- この検討部会で検討いただくのは、加賀市版「生涯活躍のまち」構想(加賀市全体の方向性)と加賀市版「生涯活躍のまち」基本計

画(旧山中温泉医療センター跡地の活用案)となる。

- この部会で方向性を議論いただいたものをもとに、運営推進法人をプロポーザル等で選定していくようなことを想定している。
- この運営推進法人が指定された後、どのように運営していくのかも含め、様々な関係機関の意見をいただきながら、事業計画を作っていくという流れとなる。

(松下座長)

- 話が明確になってきた。具体的な内容、取り組みというよりは、その構想がそこでやっていけそうかという審議だと思われる。

(野澤委員)

- 構想づくりの背景として、旧山中温泉医療センター跡地活用ありきということなのか、それとも加賀市全体の取り組みを考えていくということなのか。このあたりを再度はつきりさせておきたい。

(堀田氏)

- 現在取り組んでいるのは、加賀市全体の構想づくりと、その具体的モデルとしての基本計画づくり。基本計画策定にあたり、旧山中温泉医療センターが拠点候補として挙げられており、ここを拠点とした基本計画を検討している。
- 加賀市全体の構想、加賀市版「生涯活躍のまち」づくりの特徴としては、中高年だけでなく若い世代の移住促進も合わせて取り組んでいくということで、その受け皿としての地域づくりとしては、ローカルベンチャーや若者等就労支援事業と連携したものになっていくということ、さらには従来の住人も巻き込んだ地域づくりとしていくことが挙げられる。
- その地域を実際に作りこむ場所として、今のところ旧山中温泉医療センター跡地が候補として挙げられている。

(三本松委員)

- 現在の旧山中温泉医療センター跡地にある施設は診療所以外すべて取り壊す予定か。敷地としては十分なスペースがあるという認識で良いか。

(太田地域医療推進室長)

- 診療所、サービス付き高齢者住宅、北陸大学のセミナーハウスは残し、残りは取り壊す予定。

(三本松委員)

- 敷地としては十分なスペースがあるということが分かりました。
- 基本構想として盛り込まれていることは充分素晴らしいと考える。
- 実際に運営していくには、収益の柱は何になるのかということも重要で、今後検討が進んでいくのだろうと思っている。

(松下座長)

- 確かに、場所としての広さは充分あるため、試してみる価値はあるのではないかと。

(馬場先委員)

- 地域の中で高齢者を含む多世代間の交流を生むことが大きな目的で、そこに若者等就労支援事業を組み込んでいくということだと認識している。
- 地域だけでなく外からも人を呼び込みたいということも考えているということだと、地域の中だけではなく外にも発信していくことが大切。そこで何を起爆剤として発信していくのか。
- 山中であれば漆器等が何らかの形でつながっていくのだろうと考える。
- 視察した旧山中温泉医療センター跡地でいうと、温泉が活用できないか。スポーツリハビリ等、温泉と医療を活かしたもので呼び込みの材料としていくことが必要でないか。
- 何かコアとなるようなものを拠点として、高齢者だけでなく地域の多世代とつなぎ、それが全国に注目を浴びるようなものにしていかないと、移住につなげていくのは難しいのではと考える。
- そういった視点の奇抜なアイデアもあって良いのではないかと。

(山村室長)

- 何を核とするかということについて、説明が十分でなかったところを補足。
- ローカルベンチャー支援事業については、地域資源を活かした起業に関心のある若者を対象としたプロジェクトとして蔵田オブザーバー等の協力を得ながら、別プロジェクトとして動かす予定。
- 若者等就労支援は、都市部で生活に困っている若年層やシングルペアレントを対象に、加賀市で就労支援に取り組むということ、別プロジェクトとして大阪のNPO 法人と連携して取り組みを始めているところ。
- これら2つに加えて旧山中温泉医療センター跡地を活用した「生

涯活躍のまち」づくりを連携し、相乗効果を生んでいくことをねらっている。

- 「生涯活躍のまち」としては、地方への移住を希望する 40 代以上の中高年がメインターゲットとなるが、こうした若者向けプロジェクトと連携することで、多世代交流をより進めていきたいという思い。

(堀田氏)

- 旧山中温泉医療センター跡地で利用されているかけ流しの温泉プール等の温泉設備は大きな資源だと考えている。
- これを地域の方にも使ってもらえるようにして、温泉を核にした交流拠点を作っていくことを提案していきたいと考えている。
- こうした拠点がある地域に、ローカルベンチャーや北陸大学の学生といった若い世代の関わりを作っていくことで、特色のあるまちづくりを進めていくことができるのではないかと考えている。
- こうしたまちづくりを地域の方にも受け入れていただけるように提案していきたい。

(馬場先委員)

- そうすると、構想に組み込まれる絵もより具体的なものが見えるようにしていただけると良い。

(藏田オブザーバー)

- そうした内容を構想に盛り込んでいくと同時に、繰り返しになるが、誰が担うのかという座組みによって同じ絵を見ても考え方が変わる可能性がある。例えば金融機関のコミットメントや連携先の大学も含め、運営法人をどのように想定するのか、一定の方向性を示してしまったほうがより実現性の高い構想がしっかりと描けるのではないかと。
- 運営法人をどのように選定していくのかということも含め、加賀市らしい運営法人の在り方ということの基本構想の中に盛り込めるものがあるのであれば盛り込んだほうが、結果として、その後の事業計画にも良い影響を与えるのではないかと考える。

(山村室長)

- 補足として、現在、山中商工会で旧山中温泉医療センター跡地をどのように活用したいかということ懇話会を作って検討が進められている。ここで取りまとめたものが市に提出される予定であり、こうした地域の要望も勘案しながら、今後の議論を進めていきたい。

<p>その他</p>	<p>(山村室長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 事務局から参考として、配布資料、移住ガイドブック「加賀でかがやく」を説明。 ● 地方への移住を検討される方を対象に加賀市を案内することを目的に作成した資料。 ● 首都圏等で実施される移住交流フェア等で配布し、加賀市の紹介を行っている。 ● 冒頭、生業(仕事)を紹介。一番の関心ごとである加賀市に移住した後の仕事について、様々な業界を代表する企業の社長から紹介している。 ● そのほか、加賀市の海から山まで様々なエリアの紹介と、一口コメントとしてU・Iターン者の声を紹介、加賀市の移住定住の支援策、暮らしの紹介、移住者の声を掲載。 ● 大聖寺の神明町に本年7月に整備した生活体験施設(暮らし体験の家)、仕事体験プログラムとして、それぞれの業界の事業者に協力をいただいて、インターンのような制度を紹介。 ● こうした体験を通じて加賀市への移住を検討していただくようなサポート体制を今年度から始めている。 ● このガイドブックだけでなく専用ポータルサイトを作成し、多様な情報をホームページ等で公開。フェイスブックでも様々な情報を発信している。 ● また、本日もオプザーバー参加している、加賀市定住促進協議会のスタッフ、地域おこし協力隊を配置し、移住のよろず相談を行っている。 ● このガイドブックは、大阪から移住してきた方に作成していただき、これも一つのPRとしている。
<p>補足 (河合副市長)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 本日は足元の悪いなか、視察を含め参加いただきありがとうございます。補足説明をさせていただきます。 ● 議論の中で幾つか話にあがった旧山中温泉医療センター跡地の温泉について、現在、リハビリ治療を目的とした利用のほか、医療保険とは別の形で健康増進を目的とした利用、さらに放課後児童デイの利用者にも活用してもらい、保護者にも好評を得ている。 ● 地方への移住を希望する40代以上の元気な中高年、若者等就労支援、ローカルベンチャーとという3つの軸を組み合わせたものとして加賀市全体の構想を組み立てていくが、その具体的なモデ

	<p>ルの旧山中温泉医療センター跡地活用の構想としては、温泉活用を地域の方に広げたまちづくりを進めていきたいというのが、想いとしてある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● そのほか、藏田オブザーバーからいただいた運営法人の件について構想に盛り込んでほしいということについても検討していきたい。 ● 北國銀行、北陸銀行と加賀市とは、地方創生に向けた取り組みも含む包括協定を締結したこともあり、そうした視点でも個別に相談させていただきたい。
<p>コメント (宇野委員)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 人口構成をしっかりと分析して、どこに人が集積し、どのような投資をすればよいのかということもしっかりと検討できればと思い、詳しくデータを見たいと考えた。 ● 温泉という資源がある加賀市において、人が寄り添う、連れ添う場ができたらと考えている。
<p>閉会挨拶 (代工部長)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 本日はお越しいただきありがとうございます。 ● 本日は拠点候補地を見ていただき ● 加賀市版「生涯活躍のまち」構想においては、上位計画である総合計画および市民憲章をもとに「住んでいたい、来てみたい」というようなことをコンセプトに考えている。 ● 本日のようなたくさんのご意見をいただいて、修正を加えながら進めていきたいと考えています。また次回、よろしく願います。

以上